

柑橘・キウイの安定経営目指し研修 ～優良園管理者を表彰～

神奈川県内の柑橘とキウイ生産の諸課題解決に向けた情報交換のため、3月13日、「柑橘安定経営研究会」（主催：全農かながわ、（一社）神奈川県果実協会）がJAかながわ西湘で開催され、生産者、JA職員、関係機関など約80名が参加した。挨拶の中でJA全農かながわ鈴木強副本部長は、中央ベジフルセンターを中心とした販路開拓などの販売機能強化に触れ、高品質果実の安定出荷と品質基準の徹底を依頼した。また、JAかながわ西湘の志村邦司常務理事は「湘南ゴールド」を筆頭に今後も柑橘のブランド化に取り組む姿勢を強調し、「JAへの出荷」を生産者へ呼びかけた。



江成講師が、顧客創造、地域振興の視点が安定経営に必要と説いた

税理士法人エナリ代表の江成健一氏が、「これからの農業経営の骨格」と題し講演した。農業経営アドバイザー（農林漁業金融公庫）などを歴任する立場から、「顧客創造」のため安心・安全な農作物を供給し、消費者の健康な食生活を守る強い信念を持つと説いた。また企業経営の視点から法人化を進め、六次産業化や地域ブランド振興など、地域社会へ利益還元しようと呼びかけた。

県農業技術センター足柄地区事務所は、温州みかんの浮皮抑制剤2種を混用散布した効果や着色に与える影響、また26年に国内で発生が確認された「キウイかいよう病P s a 3」の特徴や防除方法などの営農情報を提供した。

合わせて、県柑橘・キウイ優良園管理共進会褒章授与式を行った。平成26年10月に、県下JAの一次審査を通過した柑橘10園、キウイフルーツ10園を審査した結果、細屋近男氏（JAいせはら）が柑橘園共進会で県知事賞を、倉科博氏（JAかながわ西湘）がキウイ園共進会で県知事賞を受賞した。また、平成26年度園芸功労賞（柑橘部門）を二挺木治雄氏（JA湘南）が受賞した。二挺木氏は同JAのブランド柑橘「湘南の輝き」の確立に尽力し、JA湘南の柑橘部会長、監事、理事などを歴任した。現在も高糖度栽培「湘南のかほり」の普及やブランド維持に尽力し、「みかんの木オーナー制度」に取り組むなど地域農業のリーダーとしての功績が評価された。